ネパールからナマステ！
～青年海外協力隊通信～

高さ10メートル以上にもなる山車

こんにちは。市職員の中野麻希（あさき）です。青年海外協力隊員としてネパールに赴任してから1年以上が過ぎました。現在は、平成27年4月に発生したネパール地震からの復興を進める郡の事務所で活動しています。

事務所は、木工彫刻が盛んなパタンという世界遺産の都市の近くにあり、付近には豪華な木工彫刻が施された家やお寺が数多く存在します。地震によりこれらの貴重な建物も被害を受け、現在も修復が進められています。

鹿沼では間もなく秋祭りが開催されますが、ここパタンでも古くから実に多くの祭りが行われてきました。そのひとつに、巨大な山車をひきまわし、恵みの雨と平和な世を祈る祭りがあります。約一カ月にわたって行われるこの祭りには、海外からの観光客も多く訪れます。今回は私も参加し、ネパールの復興と平和を祈りました。

これまでの活動を通して、ネパールのさまざまな文化や習慣に触れ、人々にとって祭りや毎朝の祈りはとても重要な意味を持つものと感じました。地震や洪水などの災害に立ち向かうには、正しい防災の知識が必要なのはもちろんですが、被災した人々にとっては復興した平和な世を取り戻すために、心のよりどころとなる祈りは欠かせないものです。

祈りを通じてネパール文化をさらに理解すると共に、学校や地域住民に正しい防災の知識を伝え、復興活動に取り組んでいきたいと思います。

木工彫刻の扉を彫る職人

財源確保のために広告を掲載しています。